

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特8

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

自己評価

Table with 2 main columns: 学校運営計画(4月) and 評価(総合). It details school management strategies, goals, and evaluation results.

学校関係者評価

Table with 2 main columns: 評価(総合) and 自己評価は. It shows evaluation results from school-related parties and self-evaluation criteria.

Main evaluation table with columns: 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題. It provides a detailed breakdown of evaluation items, goals, strategies, and future tasks.

Table with 2 main columns: 項目ごとの評価 and 学校関係者評価委員会からの意見. It details specific evaluation items and committee feedback.

キャリア教育 (キャリア教育課)	望ましい勤労観・職業観、社会人基礎力の育成	各学期・行事の目標や評価を進路ノートに記入し振り返りを行うよう学年会でその都度連絡する。 課題を次の目標に反映させるなど一貫性のある目標設定・振り返りを行えるよう学年と連携する。 学んだことを日常生活で意識して取り組めるようHRや学年集会での声掛けや掲示等の啓発を行う。	A B B	B	B	①進路ノートの内容を振り返る機会を設けるなど活用の一層の充実に取り組む。 ②就業体験日誌やサポートカードの保管方法の工夫を行う。 ③外部模試の予習・復習に自主的に取り組むための工夫を行う。 ④卒業学年は個々の進路に応じた指導ができるよう早めの準備を学年と連携して行う。	A	・企業や大学等の見学の充実を図ってほしい。
	就業体験の充実	前年度の実践体験の課題解決に自主的に取り組むよう声掛けや掲示を学年と連携して行う。 サポートカード作成を通して、自分の聞こえの状況や必要な支援を理解できるよう自立活動と連携した指導を行う。 事後指導では今後の目標を明確に持てるよう学年会で共通理解を図り個々の生徒に応じた指導を行う。	A B A	A				
	進路指導の充実	進路選択の参考にするため本科1・2年生時から生徒が希望する進路先を調べる学習を学年と連携して行う。 卒業学年は、主体的に試験の準備を行えるよう進路ノートを基に学年と共通理解を図り見直しを持たせた指導を行う。 本科1・2年生は、自主的に外部模試の予習・復習に取り組めるよう進路指導室の資料を活用させる。	B B B	B				
専門性向上 (専門性向上課)	専門性向上のための校内研修の充実と情報提供	外部専門家を活用し、その指導内容・助言内容の情報を研修会や学年会等を活用して共有する。 研究授業協議会等での成果を随時、情報共有できるようにする。 外部の研修会や研修図書を紹介を効果的に行う。	A A A	A	B	①外部専門家のコンサルテーションの結果を当該学年だけでなく学校全体で共有できるよう工夫する。 ②実践交流会で取り組んだ「思考ツール」「キャリア教育の基盤となる能力」などの情報共有、相互授業参観による効果的な指導に向けての取組を行う。 ③大学生支援に関する業務全般において課内全員で取り組むようにする。	A	・手話による情報保障を進めるため教員が手話を学ぶ機会を確保してもらいたい。
	本校生徒・保護者及び外部の聴覚障がい生徒の支援	関係機関と連携して充実した聴覚障がい学生支援セミナーを実施する。 実態把握のための諸検査の結果を活用し、生徒の特性に応じた効果的な指導を促す。	A C	B				
	学校教育研究の推進と教育課程実践交流会に向けての協働活動の推進	教科等横断的な指導の取組の実践事例を随時紹介する。 相互授業参観、研究授業・通常授業を積極的に参観し合い、授業改善できるように授業アンケートを実施する。	C C	C				
本科1年	基礎学力の定着	週1回の漢字テストと週末課題を実施し、基礎学力の定着、学習習慣の確立を目指す。 計画的に学習に取り組めるように、調査毎の目標・計画を立てさせる。	B B	B	B	①文章力や計算力などの向上につながる週末課題を課し、確実な基礎学力の定着、学習習慣の確立を目指す。 ②集団生活のマナーやルールなどを、生徒同士が互いに注意喚起し合える集団づくりを行う。 ③模擬試験の事前・事後指導をしたり、面談を行ったりするなどして進路実現への意識の向上を図る。 ④進路を具体的にイメージできる取組や情報提供を行う。	A	・特になし
	基本的生活習慣の確立	家庭や寄宿舎と連携をとり、健康管理に留意しながら学校生活が送れるように支援する。 課題等の提出期限を守り、忘れ物がないよう、手帳を活用させる。 集団で生活するうえで必要なマナーやルールを理解し、集団の一員として行動できる力を育てる。	B B B	B				
	進路意識の育成	模試等の終了後の復習の徹底、担任による面談を通して課題と今後の目標を明確にさせる。 進路に対する意識を高めるために、企業・大学見学や就業体験に主体的に取り組ませる。	B C	B				
本科2年	学習習慣の確立 基礎学力の定着	週末課題をさらに発展させることで、学習習慣の確立と文章力の向上を図る。 調査の振り返りを徹底させ、自分の学力を客観的に可視化できるように指導する。 資格取得の奨励と校内・校外模試の積極的な受験を促す。	B B B	B	B	①希望進路に応じて週末課題を通して、語彙力や文章力の向上を図るきめ細かな指導を行う。 ②TPOに応じたコミュニケーションの意義について考えさせ学校生活の中で実践できるように指導する。 ③障がい認識だけでなく、ビジネスマナーや社会性を育てるための自立活動の実践及び学習形態の検討を行う。 ④上級学校で学ぶために必要な資質や働くことの意義について幅広い視野に立って考えられるような取組を行う。また、大学進学希望者は早い時期から校外模試の受験を奨励する。	A	・特になし
	基本的生活習慣の確立 規範意識の育成 社会性の育成	手帳に連絡等を正確に記入させ、内容を確認した上で行動できるように指導する。 「筆談DAY」を定期的に実施し、コミュニケーション力の更なる向上を図る。 就業体験での課題の解決に向けて、生徒自身で考えさせるための指導・支援を行う。	A B B	B				
	進路意識の育成	様々な人の生き方に触れ、生徒一人ひとりが将来のロールモデル像を確立していく。 担任等による個別面談を実施し、早い段階から進路目標を設定していく。 学年教員全員で進路指導や自立活動の指導に取り組む、指導力の向上を図る。	B A A	A				
本科3年	学習習慣の確立、 類型に応じた学力の定着	自主学習の習慣を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませる。 毎週漢字テストを実施し、個人の得点を昨年より1点以上向上させる。 調査や模試の目標と計画を立てさせ、実施後の復習を徹底させる。	B C B	B	B	①学習習慣の定着のため目標設定を丁寧に行わせたり、学習方法を一緒に確認したりする。また、学習に多くの時間が割けるよう行事の在り方を検討する。 ②マナーを日頃から意識させるために簡単にまとめたものを掲示したり、機会を捉えて話したりする。 ③進路指導に余裕をもって取り組むため、進路目標は2年時にある程度決めておく。 ④基礎技能コースは保護者と連絡する機会を設け、進路の方向性を一学期中に決めるようにする。	A	・特になし
	基本的生活習慣の確立、規範意識の向上、社会性の確立	より良い健康管理の方法を確立させ、欠席日数を昨年より半減させる。 手帳を日常的に活用させ、メモを取る習慣を定着させる。 どんな場面でも思いやりとマナーある行動がとれるよう意識させる。	A B B	B				
	進路実現	面談を通じて早期に目標を明確化し、達成への継続的な努力を促す。 様々な人の生き方について学ばせ、社会参加への心構えを持たせる。	B A	B				
専攻科	学習指導	進路や資格取得に繋がる、レポート形式の自由課題を毎日実施する。 各種検定試験の上位級の取得を目指すために、年間計画に設定させる。 専門知識と技術の向上に向け、「ものづくりマイスター派遣事業」を活用する。	A B C	B	A	①手帳やカレンダーを有効活用し、配布物や提出物等を必ず確認・理解させるなど自己管理の力を高める。また生徒の実態に合った情報保障をする。 ②自由課題と必要な内容の課題を組み合わせて実施し、学習習慣を定着させる。 ③文化祭や体育祭での専攻生の役割、専攻科独自の行事の見直しを行う。ものづくりマイスターを活用する。 ④専攻科卒業生を招くなど、働くことについて意識を持たせる。	A	・特になし
	生徒指導	デジタルサイネージやホワイトボードを活用し、生徒主体のHRの運営を行う。 自立・自律を促すために『自立のためのワークブック』を活用する。 行事に積極的に参加することにより、責任感や成就感を養う。	A B A	A				
	キャリア教育	就業体験を適宜実施し、適性や希望に応じた進路実現を目指す。 進路に関する情報をこまめに提供し、面談を週に1回実施する。 自立研修や企業見学等を通して、働くことの意義を理解させる。	A A B	A				
寄宿舎教育 (寮務部)	学校との連携	ユニット会議を増やし、家庭や学級担任と情報共有しながら、舎生への指導・支援を行う。 事務室との連携を図ることにより、光熱費や消耗品費の削減を図る。	B A	B	B	①ユニット制の成果と課題を踏まえ、運営の再検討を行う。 ②光熱費について灯油からガスへの移行を踏まえ、事務室と連携して生活環境を整える。 ③意欲的な活動に向けた舎生会の在り方を検討する。 ④災害への備えや避難場所での情報保障、避難方法などの情報提供を行い、危機管理意識の向上を図る。	A	・特になし
	基本的生活習慣の確立と円滑な人間関係の支援	日課に沿った生活支援を行い、自主性と社会性の向上を図るため、ユニット会議を週1回は行う。 舎生会規約の改訂と舎生の社会性を育みながら目標を持った舎生会活動を行う。	B B	B				
	危機管理体制の確立	災害における避難マニュアルを基に訓練を実施し、課題の改善を図り職員及び舎生の意識を高める。 学級担任と養護教諭との連携を取りながら、舎生の健康状態を把握し、適切な対応をしていく。	B A	B				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・共生社会を形成する「当事者としての意識」を醸成するため、学校教育研究の活性化に努め、授業改善を一層進める。
- ・手話言語条例の理念に基づき、生徒・職員が手話を学ぶ機会の確保と充実に取り組む。
- ・自分に自信と誇りを持ち、卒業後の生活を具体的にイメージして進路実現に取り組むためのキャリア教育の改善・充実に取り組む。
- ・生徒一人一人に寄り添い、安全・安心な学校生活が送れるよう生徒指導体制の改善に取り組む。

評価項目以外のものに関する意見

- ・学校運営全般に、職員の努力が感じられる。
- ・いずれの項目も適切な評価、次年度の課題が設定されていると思う。今後の生徒の成長を期待する。